

FREE

ご自由にお持ちください。

No.824
2022 May

5

岐阜県の森林・林業

も り
森林のたより



News of the forest



第4期岐阜県森林づくり基本計画
(令和4年度～令和8年度)を策定しました



早生樹による再生林(森林づくりの推進)



県産材による非住宅建築物の木造化(林業・木材産業の振興)



森林サービス産業の推進 <森の中での健康増進ウォーキング>
(森林の新たな価値の創造と山村地域の振興)

●詳細は4ページをご覧ください



編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

http://www.g-forestry.or.jp (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧ください。

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込(問合せ)先/TEL
3月1日(火)~ 5月31日(火)	緑の募金(春期)	「緑の募金で進めようSDGs」をスローガンに家庭募金、企業募金、職場募金などを行います。	公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 TEL058-273-7577
未定	狩猟免許試験	狩猟免許取得のための試験を実施します。 ●開催日時は未定(4月下旬頃までに県HPにて公示) ※事前に申請書類等の提出が必要です。詳しくは右記にお問い合わせください。	未定 各地域を所管する県事務所等、または環境生活政策課 (058-272-1111 内線 2701)

「白山白川郷ホワイトロード」が全線開通します

白川村と石川県白山市を結ぶ山岳有料道路「白山白川郷ホワイトロード」は、6月中旬に全線開通します。この道路は、白山国立公園特別保護地域の山岳地帯を通過し、この季節、残雪と新緑の両方を楽しむことができます。壮大な山々の風景や、溪谷から吹き上がる涼やかな空気が、爽やかな世界を感じさせてくれます。「白川郷展望台」や「ブナ原生林遊歩道」での森林散策など、「白山白川郷ホワイトロード」の大自然をぜひお楽しみください。

なお、詳しい情報は、白山林道岐阜管理事務所にお尋ねいただくか、ホームページでご確認ください。

通行料金

車種区分	片道利用料金
軽自動車	1,400円
普通自動車	1,700円
マイクロバス	5,000円
大型バス	11,000円



※三方岩岳

【森林保全課 水源林保全係】

お問い合わせ先

白山林道岐阜管理事務所 TEL/FAX 05769-6-1664
https://hs-whiteroad.jp/



市況	22
林業者向けお知らせ	21
野鳥のヒナを拾わないで!	21
国有林の現場から⑦滝波谷における治山事業の取組	20
キノコの栽培工程で発生する酢酸が菌糸伸長に及ぼす影響	19
研究コーナー	18
山林協会通信3 読者の方からの質問に答えます	18
スマート林業通信②③ 造林・育林作業の機械化シンポジウム	16
研究コーナー	16
地域の人がいくつになっても、やっぱり「山」が好きなんだ!!	15
普及コーナー	14
研修生の現場課題を解決に導く新たな施業プランナー研修	14
樹木を見分ける 樹木を知るための一歩	13
シリーズ「森林・環境税」で緑豊かな清流の国づくり(1)	13
森林と人を活かす知恵(112)	12
木の香るぎふの施設(110) みつつかこども園	11
morinosプログラム紹介!!	10
ぎふ木遊館通信	9
伐採及び伐採後の造林の届出制度・伐採旗設置制度のお知らせ	8
岐阜県地域森林監理士の認定について	8
山のおしごと(370) 目にもとわりつく、メモトイ	7
山の歳時記(20) フジの花	6
ぎふの木のおもちや・木製品モト等の導入経費の一部を補助します	5
ぎふの木育教材導入支援事業	5
「第4期岐阜県森林づくり基本計画」を策定しました①	4
「第4期岐阜県森林づくり基本計画」を策定しました②	3
「白山白川郷ホワイトロード」が全線開通します	2
イベントカレンダー(一般向け)	2

岐阜県の森林・林業
No.824 5

森林のたより

News of the forest

第4期岐阜県森林づくり基本計画
(令和4年度~令和8年度)を策定しました






表紙●詳細は4ページをご覧ください。

岐阜県林政部予算のあらまし

林政部の令和4年度一般会計当初予算の総額は、187億1千901万7千円で、前年度と比較して約5千200万円、率にして0.3%の増額となっております。

林政部では、今年度からスタートする「第4期岐阜県森林づくり基本計画」のもと、「清流の国ぎふ」の未来を支える森林づくりに取り組んでまいります。
計画の施策の柱は3本あり、1つ目は「森林づくりの推進」です。近年、頻発化、激甚化している豪雨災害により、森林・林業分野でも多大な被害が発生していることを受け、「災害に強い循環型の森林づくり」を推進してまいります。また、担い手不足に対応するため「森林技術者の確保・育成・定着」に引き続き取り組んでまいります。

2つ目は「林業・木材産業の振興」です。昨年、木材利用促進に関する法律が改正されたことから、県においても県産材の利用促進に関する新たな条例の制定を目指すとともに、非住宅建築物の木材化等に向けた相談窓口の設置等により「都市の木材化・脱炭素社会の実現に向けた県産材の需要拡大」を推進してまいります。また、ウッドショック等の影響により、県産材の安定供給が求められていることから、「DXの推進による林業・木材産業改革」を進めてまいります。

3つ目は「森林の新たな価値の創造と山村地域の振興」です。森林空間を活用し、新たな雇用と収入を生み出す森林サービス産業を育成するほか、森や木に親しむ体験プログラムを県内各地で実施するなど「ぎふ木育」の全県展開に取り組んでまいります。
なお、これらの施策を効果的に推進するため、今年度から次のとおり林政部の組織を改正しております。

以下、主な事業をご紹介します。

重点施策・森林づくりの推進

1 激甚化する災害に備えた山地防災力の維持・強化
近年の気候変動により、頻発化、激甚化の傾向にある豪雨災害から、県民の生命・財産を守り林業の振興を図るため、治山施設と森林整備を組み合わせた総合的な山地防災力の強化と災害に強い森林作業道の整備を推進します。

- (1) 治山施設と森林整備を組み合わせた山地防災対策（事前防災地区の全県展開） **(579,222千円)**
 - ・市町村や事業体と連携した事前防災地区を設定し、間伐などの森林整備と、土石や流木を捕捉するスリットダムの設置等の治山対策を総合的に実施
- (2) 対策が必要な山地災害危険地区の整備 **(1,424,275千円)**
 - ・防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策として治山事業を実施し、山地災害危険地区の整備を推進
- (3) 治山施設の機能強化と長寿命化 **(411,279千円)**

・治山施設個別施設設計に基づき既存治山施設を維持修繕するとともに、機能強化対策を推進
新(4)災害に強い作業道づくり(機能強化支援)

既設森林作業道について、路盤や排水処理施設の整備等機能強化を支援し、安全性や耐久性を向上 **(5,000千円)**

2 100年先を見据えた森林づくりの方向性と仕組みづくり
森林配置区分ごとの施策指針を策定し、計画に沿った森林づくりを促進するとともに、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、主伐・再造林などに取り組みます。

- (1) 脱炭素社会に貢献する森林づくりへの支援 **(233,064千円)**
 - ・主伐・再造林への重点的支援により、森林の若返りや造林未済地の解消等を促進
- (2) CO2吸収量が多い早生樹の導入促進 **(4,766千円)**
 - ・CO2吸収量が多い早生樹の施体系系の確立等を図り、導入を促進するため生育状況の分析などの実証試験を実施
- (3) 木材生産林や針広混交林へ誘導する森林整備基準の策定と、森林配置区分に応じた森林整備への支援 **(3,801,570千円(一部再掲))**

・環境保全林における人工林の針広混交林化のための施業方法の確立及び森林配置区分ごとの施業指針づくりに取り組むとともに、森林配置区分それぞれ

所属名
林政課
森林活用推進課(新設)
森林吸収源対策室(新設)
県産材流通課
木造建築推進室(新設)
森林経営課(森林整備課を改称)
林業経営改革室
森林保全課(治山課を改称)

の目的に沿った森林整備等に対して助成

3 森林経営管理法に基づく市町村による森林管理の支援
森林経営管理制度を担う市町村の取組みを支援するため、地域森林管理支援センターの機能、体制の拡充や、森林情報を提供する新たなシステムの運用等を行います。

- (1) 市町村の林務行政を支援する「地域森林管理支援センター」の機能強化 **(29,806千円)**
 - ・森林経営管理制度を運用する市町村を総合的に支援するため、支援センターの機能、体制を拡充
- (2) 森林クラウドシステムによる情報共有 **(14,677千円)**
 - ・森林クラウドシステムの運用を開始し、精度の高い森林情報を市町村へ提供
- (3) 自伐林家が行う森林整備への支援 **(20,000千円)**
 - ・自伐林家等中小規模森林所有者が行う除伐、間伐及び作業道開設等の森林整備に対して助成

4 森林技術者の確保・育成・定着

「森のジョブステーションぎふ」を核とした就業の斡旋に加え、UIJターンによる就業促進、造林を担う人材確保を行うとともに、森林技術者の安全を確保し定着率を高めるため、労働安全対策に取り組みます。

- (1) 新規就業への支援(県内への移住支援) **(9,750千円)**
 - ・県内で林業に従事するために県外から移住した者を対象に、移住支援金を給付
- (2) ICT機器等の操作研修の開催 **(1,756千円)**
 - ・ICT機器を扱う技術者の育成と林業現場へのICTの早期普及を図るため、林業事業者を対象とした研修会を開催
- (3) 労働災害撲滅に向けた協議会の設立、労働災害レスキュー訓練の実施 **(1,231千円)**
 - ・林業労働災害の撲滅を図る協議会を設置し、巡回指導や講習会などを行うとともに、作業現場における労働災害時のレスキュー訓練を実施
- (4) 造林保育専門会社等設立への支援 **(3,780千円)**
 - ・新設の造林保育専門会社等を対象に、起業支援金の給付とOJT研修経費を助成

重点施策・林業・木材産業の振興

5 都市の木材化・脱炭素社会の実現に向けた県産材の需要拡大
木材利用促進に関する法律が改正されたことにより、建築物全体での木材化・木質化や化石燃料の代替としての木材利用の拡大が求められるため、建築物などへの県産材利用や、木質バイオマス利用を拡大し、都市の木材化・脱炭素社会の実現を図ります。

- (1) ぎふの木の家・山の国木材利用促進条例(仮称)の制定 **(20,000千円)**
 - ・県民や民間企業の県産材利用に対する理解の醸成を図るため条例を制定

新(2)非住宅建築物の木材化等に向けた相談窓口の設置と人材の育成 **(7,806千円)**

- ・「非住宅建築相談センター(仮称)」を設置し、木材化等を計画する民間企業等に技術的なアドバイスや現地指導を実施
- (3) 県産材を活用した住宅の新築・リフォームへの支援 **(88,800千円)**
 - ・構造材や内装材に県産材を一定量以上使用し、木造住宅を新築またはリフォームした建築主に助成
- (4) 県産材を活用した新工法開発等への支援 **(10,000千円)**
 - ・県産材を活用した新工法、新製品の研究、開発に取り組む事業者に助成
- (5) 地産地消型の木質バイオマス利用施設の導入支援 **(34,955千円)**
 - ・公共施設や多くの県民が利用する商業・観光施設等における木質資源利用ポイラー、ストーブ等の導入経費を助成

6 需要に合わせ柔軟かつ迅速に対応する木材サプライチェーンの構築

ウッドショック等により県産材の安定供給が求められるため、木材生産から加工流通過程のデジタル化や、その情報を元に需給調整を行う体制の構築、品質の確かな製材品の増産を支援し、木材需要の変化に迅速に対応する木材サプライチェーンの構築を図ります。

- (1) 工務店等のVR技術を活用した販路拡大等への支援 **(10,000千円)**
 - ・デジタル技術を活用し販路拡大体制の構築を行う事業者や、VR技術等を活用して営業力強化に取り組む工務店等に対し助成
- (2) 木材事業者等のデジタル技術による業務改善等への支援 **(8,500千円)**
 - ・生産工程管理、在庫管理、需給情報、配送システム等のデジタル化に取り組む事業者を支援
- (3) 川上、川中、川下が連携した組織が行う木材サプライチェーン構築への支援 **(3,000千円)**
 - ・住宅の建築情報と原木や木材製品の生産・在庫情報を一元管理し、適正価格での原木調達や木材の需給調整を円滑に行う体制を構築する団体に対し助成
- (4) 輸入材から県産材への切り替えのために必要なJAS規格製品生産拡大への支援 **(824,000千円)**
 - ・県産材の高品質化や輸入材の代替となる品質、性能が証明された木材製品の安定供給体制を強化するため、木材加工施設等の整備に対し助成

7 木材の安定供給と森林所有者への利益還元

安定的かつ効率的に木材を生産し、森林所有者への利益還元を進めるため、ICT化と機械化による林業事業体の生産性向上と、木材の安定供給体制の強化を図ります。

- (1) 森林内の通信環境向上の推進 **(7,800千円)**
 - ・携帯電話の圏外でも通信可能なLPWA通信機器を県農林事務所へ配備
- (2) 高性能林業機械の導入・レンタル支援

- ・林業事業者が高性能林業機械を導入、レンタルするための経費を支援
 - (3)生産性向上に向けたICT機器導入支援 **(7,000千円)**
 - ・効率化と省力化、安全性向上を図るICT機器等を活用する林業事業者に対し、導入、レンタル経費を助成
 - (4)林道等路網整備の推進 **(1,706,172千円)**
 - ・市町村が行う林道の整備に対して助成するとともに、基幹的な林道及び林業専用道を県が代行して整備
 - (5)架線集材技術の研修・普及 **(5,500千円)**
 - ・林業架線作業主任者養成に向けた講習や油圧式集材機の操作研修等を実施
- 重点施策・森林の新たな価値の創造と山村地域の振興**
- 8 新たな雇用と収入を生み出す森林サービス産業の育成**
- 山村地域の活性化のため、森林空間を活用した森林サービス産業を育成するとともに、脱炭素社会の実現に向け、森林吸収源対策の新たな仕組みづくりの検討等を行います。
 - 新** (1)森林空間の活用を促進する「森林サービス産業推進協議会(仮称)」の設立 **(3,700千円)**
 - ・森林サービス産業に取り組む事業者を増やすため、先進事例の紹介や専門家によるセミナーを開催するとともに、推進母体として企業、団体、市町村等で構成する協議会を設立
 - (2)森林空間を活用した施設整備への支援 **(36,500千円)**
 - ・森林の有する保健文化機能の維持増進や生活環境保全の安全性、利便性向上のため、市町村に対して施設設置や改修経費を支援
 - 新** (3)森林吸収源対策の岐阜県モデル構築に向けた調査・研究 **(6,807千円)**
 - ・森林のCO₂吸収量の評価手法、オフセットクレジットにより得られる収益を森林整備に充てる仕組みを調査、研究
 - (4)J-クレジットの普及・啓発、県営林におけるJ-クレジットの取得 **(6,303千円)**
 - ・J-クレジットの認証取得に関する普及、啓発を実施するとともに、県営林においてJ-クレジットの認証を取得
- 9 ぎふ木育30年ビジョンの実現に向けた「ぎふ木育」の新たな展開**
- 森林・林業に対する県民の意識を醸成するため、木育の総合拠点「ぎふ木遊館」と森林教育の総合拠点「森林総合教育センター(morinos)」を核として、あらゆる世代の県民に対し、森や木に親しみ、森とのつながりや森林文化の豊かさを段階的、継続的に学ぶ機会を提供します。
 - (1)「ぎふ木遊館」と「morinos」を拠点とした「ぎふ木育」の企画展開 **(85,068千円)**
 - ・「ぎふ木遊館」や「morinos」において、魅力的で多様なプログラムを開発、実施
 - ・各地の「ぎふ木育ひろば」で木育プログラムを行う「移動型ぎふ木遊館」や、学校等に出向いて森に親しむ体験活動を行う「森の出番プロジェクト」を実施
 - ・新たな地域拠点の整備に向けた調査・検討を実施
 - (2)「ぎふ木育」の指導者育成 **(4,575千円)**
 - ・「ぎふ木遊館」や「morinos」において、森や木に親しむ体験に係る指導者の養成とスキルアップに向けた研修を実施するほか、県内各地で指導者養成研修を実施
 - (3)地域で活躍する団体、指導者等との連携促進 **(34,626千円)**
 - ・自然体験活動等を実施している団体等との連携を強化するため交流会を開催するほか、幼稚園・保育園や小中高等学校、市町村等が行う、森や木に親しむ体験・学習活動を支援
- 10 きのこなどの特用林産物の振興**
- きのこ生産資材の安定供給、新規生産者の確保、安心で高品質なきのこ類の生産、大都市圏や海外へ向けられた販路拡大の支援を行います。
 - (1)きのこ生産資材の安定供給に向けた支援 **(1,440千円)**
 - ・生産者団体の生産資材購入費用に対し助成
 - (2)きのこ生産の新規参入者への経営支援 **(2,000千円)**
 - ・生産開始直後の経営安定化のための給付金を支給
 - (3)「ぎふ清流GAP」等の取得や実践に必要な施設整備への支援 **(5,000千円)**
 - ・きのこ生産者によるGAP等の認証取得に必要な施設整備に対し助成
 - (4)ビジネスマッチングの実施など都市部や海外に向けたきのこの販路拡大への支援 **(4,300千円)**
 - ・国内や海外での販路開拓の取組みに対する支援や、きのこの生産・流通事業者と飲食店やホテル等の需要者によるビジネスマッチングを実施
- 11 「清流の国ぎふ」森林・環境税を活用した自然環境の保全・再生**
- 管理不足の森林の増加、外来生物の繁殖、水環境の悪化などにより、森林や河川の持つ公益的機能の低下が懸念されていることから、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、自然環境の保全・再生に向けた取組みを行います。
 - (1)森林部門 **(85,219,913千円)【一部再掲】**
 - ・奥地水源林の間伐、危険な樹木の除去、造林未済地等での早生樹の植栽等の森林整備を支援
 - ・自然環境保全のための人づくり等を推進するため、啓発効果の高い公共施設等の木造化・内装木質化に対する支援や、森や木、川に関する環境教育等「ぎふ木育」の推進等を実施
 - (2)共通部門 **(33,500千円)**
 - ・地域団体が実施する自然環境保全の取組みを支援

「第4期岐阜県森林づくり基本計画」を策定しました (全4回)

県では、平成18年に制定した「岐阜県森林づくり基本条例」に基づき、5年間を計画期間とする「第4期岐阜県森林づくり基本計画」を策定し、本年度から新たにスタートしました。

第1期基本計画では、「植えて・育て・伐って・利用する資源循環型の『生きた森林づくり』」、第2期基本計画では、「守って、活かす、環境保全型の『恵みの森林づくり』」、第3期基本計画では、「地域ごとの望ましい森林への転換を目指す『100年先の森林づくり』」に取り組んできました。第4期基本計画では、これまでの取組みに加え、頻発化・激甚化する災害への対応や、世界的な目標であるSDGsの達成、2050年カーボンニュートラルの実現、DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進など、社会情勢の変化や新たな時代の潮流に的確に対応することを目指します。

また、計画の策定に当たっては、林業関係者等からの意見聴取や、パブリックコメントの実施などにより、700件を超えるご意見をいただくとともに、有識者会議等で議論を重ねてきました。こうした経緯を踏まえて策定した第4期計画の全体像は次のとおりとなります。

主な施策は、今後3回に分けてご紹介します。また県のホームページでも詳細を公開していますのでご覧ください。

第4期基本計画の全体像

基本方針	施策区分	施策の柱
「清流の国ぎふ」の未来を支える森林づくり 「森林を守り」活かし「親しむ」魅力あふれるふるさとを目指して、	森林づくりの推進	1 災害に強い循環型の森林づくり
		(1) 激甚化する災害に備えた山地防災力の維持・強化
		(2) 100年先を見据えた森林づくりの方向性と仕組みづくり
	振興 林業・木材産業の 山村地域の振興 価値の新たな	2 森林技術者の確保・育成・定着
		3 都市の木造化・脱炭素社会の実現に向けた県産材の需要拡大
		4 DXの推進による林業・木材産業改革
	(1) 需要に合わせ柔軟かつ迅速に対応する木材サプライチェーンの構築	
	(2) 木材の安定供給と森林所有者への利益還元	
	5 森林空間等を活用した森林サービス産業の育成による山村振興	
	(1) 新たな雇用と収入を生み出す森林サービス産業の育成	
	(2) 「ぎふ木育30年ビジョン」の実現に向けた「ぎふ木育」の新たな展開	
	6 きのこなどの特用林産物の振興	

【林政課 村土秀巳】

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8470 林政課まで

ぎふの木育教材導入支援事業



～ぎふの木のおもちゃ・木製品キット等の導入経費の一部を補助します！～

岐阜県では、将来の森林づくりを担う子どもたちに対し、木材利用や環境保全に対する理解を深めるとともに『ぎふ木育』の取組みを進めるため、ぎふの木のおもちゃや、木製品キット等を導入する際の経費の一部を補助し、木育教材の導入を支援しています。10年目となる令和3年度は、14市10町、計56施設に対し木育教材導入の支援を行いました。

ぎふの木育教材導入支援事業 事業概要

- ①対象事業者 市町村、学校法人、社会福祉法人、一般社団法人、医療法人、子育て関連のNPO法人等
- ②対象施設 幼稚園、保育所、認定こども園、小中学校、義務教育学校、市立特別支援学校、児童福祉施設、地域子育て支援拠点施設、認可外保育所、託児所、保育・幼児教育等の学科を有する大学等
- ③対象となる教材 (1)木のおもちゃ (2)木製品キット など
※ぎふ証明材で作られたものであることの証明が必要なため、事前に販売者に確認してください。
- ④補助金額 導入経費の1/2以内(木のおもちゃ等の導入は、100千円/施設が上限。木製品キットの導入は、3千円/キットが補助対象経費の上限)。ただし、以下の場合には特例あり。
 - 「ぎふ木育教室」を実施する場合の木製品キットの導入
導入経費が20千円以下の部分は10/10以内、20千円を超える部分は1/2以内の額。
(3千円/キットが補助対象経費の上限)
※令和4年度「ぎふ木育教室」の募集は終了しています。
 - 「ぎふ木育ひろば」認定時の木のおもちゃ等の導入
導入経費の10/10以内。(100千円/施設が上限)
 - 「ぎふ木育ひろば地域支援拠点」認定時の木のおもちゃ等の導入
導入経費の10/10以内。(200千円/施設が上限)
※振込手数料、送料は補助対象経費に含めません。
- ⑤申請方法 4月1日以降に、交付申請書を提出してください。
- ⑥受付期間 令和4年4月1日(金)～令和5年1月31日(火)
※予算額に達した時点で受付を締め切ります。
- ⑦留意事項 県からの交付決定通知の後に注文するものが対象となります。
※購入の注文をした後での補助申請は認められません。

木の種類によって、
色も匂いも手触りも違います



自分で作って遊べる
おもちゃもあります



「たるほほ」をモチーフに
した積み木「つみほほ」



木の教材(木のおもちゃ)を導入した施設の方から、「子どもたちに好評で楽しんでもらえた、今後も木育の活動を取り入れたい」という声をたくさんいただいています。

他にも、「木育や木について、保護者に知ってもらおう良い機会になった」という意見もいただいております。本事業ではおもちゃで遊ぶ子どもに対する教育面での効果のみならず、保護者に対しても木育、ぎふの木に関心をもっていただける機会となっています。

木のおもちゃ等の木育教材に興味がある、木育教材を取り入れたいと考えている施設の方は、下記連絡先まで気軽にご相談ください。

また、岐阜県HPでも本事業について紹介しておりますので、「木育のいっぽ」で検索ください

木育のいっぽ

検索

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8821 森林活用推進課まで



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

山を薄紫色に彩るフジの花。

古い文献には「フヂ」と記されていますが、その名の由来は風が吹く度に花が散る「吹き散る」を意味すると考えられています。

また日本では漢字で「藤」と記されますが、これは中国でシナフジを「紫藤」と表記していたことに由来するそうです。

フジ (*Wisteria floribunda*) は本州、四国、九州に分布し、別名ノダフジ(野田藤)とも呼ばれます。野田とは摂津国野田村(現在の大阪)

市)がフジの名所であったことに由来し、関西では「吉野のサクラ、高雄のモミジ、野田のフジ」と言われました。

ツルは樹木などに左巻きに巻き付いて登り、光を求めて樹冠で繁茂する好日性植物で、夜間は葉を閉じます。

多くの花を付けた花序は長さ20〜90cmにもなり、花は生のままサラダや天ぷら、シロップ漬けにして食べられます。しかしマメ科植物はレクチン (Lectin) を中心とした配糖体の毒性が含まれるため、多量に摂取するとおう吐、下痢、胃痛などを発症するので細心の注意をはらってください。

その他に、樹皮や莢にはウイスタリン (wistarin)、種子には有毒性アルカロイドの一種であるシチシン (cytisine) が存在するという報告もあります。十分加熱処理していない種子を食べると食中毒する可能性が高くなります。

実際に私は今から30年ほど前に、しつかり火を通さなかったフ

ジの種子を仲間と一緒に食べ、おう吐に苦しんだ思い出があります。花の交配は主にクマバチに頼っており、莢が乾燥してよじれ、裂開することで種子を飛び散らせま

す。寺田寅彦は随筆『藤の実』に、フジの種子が莢から飛び出して10m近く離れた障子に当たったことを記しており、その後の研究から秒速61・3mで飛んでいくことを割り出しています。

さてフジと言えば、多くの人がフジとヤマフジを混同されています。

フジはツルが左巻きで、花序が長く、花は花序の根元の方から順に咲きます。これに対してヤマフジ (*Wisteria brachybotrys*) は、東海地方以西から四国、九州の比較的暖かい場所に多く分布します。ツルはフジとは反対方向の右巻きで、花序は15〜25cmとフジよりも短いです。花はフジよりも大きく一斉に咲きます。

このツルの巻き方について図鑑

で調べると、1961年出版の『牧野新日本植物図鑑』や1971年出版の『原色日本植物図鑑・木本編I』ではフジは右巻き、ヤマフジは左巻きでしたが、1989年出版の『日本の野生植物 木本I』や2016年出版の『改訂新版 日本の野生植物 2』ではフジが左巻き、ヤマフジが右巻きとなっています。

ツルの巻き方を上から見るか、下から見るかが統一されていないことが歴史を、フジを通して感じるので。



▲短い薄紫色の花序を付けるヤマフジ



山のおじゃまむし



一目にまわりつく、メマトイ【第370回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

私の日課は散歩。健康を維持するためだ。歩く時間は1時間以上。歩数は最低8000歩。歩く場所は標高170mの伊木山登山道か自宅周辺。これを十数年前から続けている。当初は体力があり楽に歩けたが、歳とともにきつくなってきた。特に伊木山。登って行くのに息が上がり、苦しくなってくるのだ。それで、ラジオを聞きながらゆっくり登り始めた。このお陰で、前より足が軽くなったような気がする。伊木山頂上からは御嶽、恵那山、伊吹山や木曾川が一望でき、実に心地よい。2022年3月12日。この日の散歩は伊木山だ。登山口でラジオを入れた。すると11年前に起きた東日本大震災の追悼番組をやっていた。あの震災からもう11年も経つたのか。月日の経つのは早いものだ、当時のことを思い出した。ラジオから聞こえてくるのは、当時被害にあった家族の悲しい声。心が痛んだ。少し登ったら小さな虫の集団が目の前に現れ、舞いまった。メマトイだった。久しぶりに目にしたこの小さな虫。懐かしくなった。

× × × ×

私がこの虫を知ったのは高校生の時。裏山へ行くとこの小さな虫が目の前を飛び回るからである。ある日理科の先生から、この虫は目の前にまわりつくから「メマトイ」というのだと教えてもらった。その後、昆虫採集に出かけるとよくまわりつかれた。しかし「また出てきたか」と手で追い払うだけ。気にはならなかった。ところがこの日のメマトイ。実にしつこい。払いのけても払いのけても、次々と攻撃?してくる。まさにメマトイであった。下りも同じだった。次々と攻撃してくるのだ。なぜ、目の前に出てくるのか。この機会にいろいろ試してみた。目をつぶり、しばらくして開ける。メマトイはいない。しかし、すぐに攻撃してくる。歩いている途中で後ろ向きになる。メマトイはいないが、すぐにまわりついてくる。やはり黒い眼の玉をねらってくるのかと思った。となると、目が茶色の外国人は攻撃されないのだろうか。こんなことも思った。この東日本大震災では私の虫仲間の数人が被害にあった。昆虫標本が波にさらわれたり、ガラスが割れるなどのひどい目があったのである。当時は命があるだけよかったと言っていたが、月日が経つにつれ昆虫標本がなくなったのは悔しいと口にするようになった。40年かかって集めた貴重な標本。それが一瞬にパー。今は体力がなく気力も出てこないという。某氏の悔しそうな顔が目には浮かんできた。

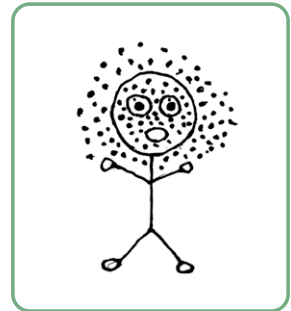
× × × ×

散歩をした日は夕食が楽しみだ。日課としている晩酌が格別おいしいからだ。これは週何日でなく、週7日だ。この日も風

呂で汗を流して、いつもの場所でテレビをつける。これからが至福のひとつの始まりだ。まずビールで喉を潤す。次に日本酒の熱燗。いい味だ。食がすすむ。テレビでは東日本大震災の追悼番組をやっていた。映し出される当時の映像。ラジオで聞くより悲惨だ。続いてロシアがウクライナを侵攻しているニュースに代わった。これも悲惨だ。ミサイルで次々と爆撃される建物。逃げ惑う市民。道路にはいくつもの死体。胸が痛むどころか激痛が走った。中でも「戦争はやめてください」と涙を流しながら訴えている少女の顔。思わず私も涙ぐんでしまった。このような悲惨なテレビを見ながら飲む酒はいつもの味ではなかった。

× × × ×

それではメマトイとはどんな虫であろうか。私自身、よく知らないで調べてみた。この虫はハエの仲間でショウジョウバエ科の1種である。日本には10数種いるが詳しいことはよくわかっていない。どの種も2~4mmと小さいので、捕まえて持ち帰り顕微鏡で調べてみた。しかし、よくわからなかった。と言うより目が悪くなり、細かいところはぼやけてしまうのである。また、人の目に集まるのは、



目やにや涙のタンパク質を吸うためだという人が多いが、これもよくわかっていないようだ。このほか、集まってくるのはすべてオスだという。オスだけ?メスがいないのになぜオスだけが集まるのか。不思議だった。時々メマトイが目の中に入ることがある。私も何回か経験しているが、その都度目をこすったりパチパチして涙を出したりしているうちに治まってしまった。しかし、早く目から取り出さないと病気が発生し、ごく稀に失明することがあるというから怖い虫でもあるのだ。そこでメマトイの行動をもうすこし知るため、5日後の3月17日、再び伊木山へ出かけることにした。ところが、前夜東日本に大地震が発生し、11年前と同じ太平洋側で大きな被害が出た。登り始めるとラジオではその地震の痛ましい状況を放送していた。またこの地域の人々が被害を受けたのか。気の毒にと胸が痛んだ。すぐにメマトイがまわりついてきた。数は前より多い。しかし、前のように顔を背けたり追い払ったりすることはしなかった。こんなことで腹を立てていたら、震災被害にあわれた人や、ウクライナの人に申し訳ないと思ったからである。





岐阜県地域森林監理士の認定について



岐阜県では、平成29年度から、地域における森林の管理及び経営に必要な専門的知識を有し、市町村林務行政への支援や民有林経営への助言等を行う「岐阜県地域森林監理士」の養成及び認定を行っています。

令和3年度は新たに以下の4人が認定され、認定者は合計で27人となりました。県のホームページで、岐阜県地域森林監理士の名簿を公開していますので、関心がある方や支援を受けたい方はぜひご覧ください。

新たに岐阜県地域森林監理士に認定された方々のご活躍を期待しています。

表-1 令和3年度岐阜県地域森林監理士認定一覧

認定番号	氏名	所属
第R03-01号	おぎす 荻巣 雅俊 まさとし	岐阜県森林組合連合会
第R03-02号	やまだ 山田 健太 けんた	岐阜中央森林組合
第R03-03号	やまうち 山内 喜康 よしやす	郡上森林組合
第R03-04号	ながぬま 長沼 隆 たかし	株式会社ユニオン

また、県では、認定した岐阜県地域森林監理士を市町村や林業事業体等の皆様に積極的にご活用いただけるよう、以下のような支援制度を設けていますので、ぜひご利用ください。

● 岐阜県地域森林監理士活用事業について

岐阜県地域森林監理士を直接雇用あるいは岐阜県地域森林監理士の所属する組織に業務委託される場合に、その経費の一部を補助します。令和3年度は7市町村、2林業事業体等が当補助事業を利用し、10人の岐阜県地域森林監理士をご活用いただきましたので、主な活用内容をご紹介します。

表-2 令和3年度岐阜県地域森林監理士活用事業 主な活用内容

事業主体	活用内容
市町村	<ul style="list-style-type: none"> ● 森林経営管理制度に係る業務（対象森林の選定、森林境界の明確化、意向調査等） ● 市町村森林整備計画や基本構想等の策定支援 ● 市町村有林の森林整備、森林経営計画の策定及び実行監理 <p style="text-align: right;">など</p>
林業事業体 林業関係団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営改善に資する助言等（進捗管理の仕組みの構築、業務マニュアル見直し等） ● 森林経営計画の策定及び実行監理の支援 <p style="text-align: right;">など</p>

● 岐阜県地域森林監理士の派遣事業について

県では、岐阜県地域森林監理士を活用し、市町村の森林経営管理制度への取組みを一層促進するため、市町村の要請に応じて岐阜県地域森林監理士の短期派遣を実施しています。

なお、派遣に要する経費（報償費、旅費）は県で負担しますので、ぜひ活用をご検討ください。

- 例えば…
- 岐阜県地域森林監理士を長期間雇用するほど業務はないが、スポット的に相談したい。
 - 意向調査対象地の選定をどう進めればいいのか相談したい。
 - 間伐が必要かどうか現地で一緒に判断して欲しい。 など

まずは、地域森林管理支援センター(058-201-5013)までご相談ください。専門の相談員が相談に応じます。

伐採及び伐採後の造林の届出制度のお知らせ

- ①立木を伐採するときは、事前に「伐採及び伐採後の造林の届出」(以下、伐採届)
- ②伐採が完了したときは「伐採に係る森林の状況報告」(令和4年4月1日以降に提出した伐採届に基づいて立木を伐採した場合)
- ③造林が完了したときは「伐採後の造林に係る森林の状況報告」(平成29年4月1日以降に提出した伐採届に基づいて造林した場合)を提出することが森林法で義務付けられています。

※間伐する場合には「伐採に係る森林の状況報告」及び「伐採後の造林に係る森林の状況報告」の提出は不要です。

※伐採後に森林以外に転用する場合には「伐採後の造林に係る森林の状況報告」の提出は不要です。

Q. 届出・報告の対象となる森林は？

対象となる森林は、地域森林計画の対象となっている民有林です。

地域森林計画対象森林は岐阜県HP「ぎふ ふおれナビ」(<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2264.html>)で確認することができます。

なお、保安林の伐採や林地開発を行う場合は、手続きが異なりますのでご注意ください。

Q. 誰が提出するの？

①伐採届

- ・「伐採届」は、森林所有者もしくは伐採をする(権限を有する)者が提出します。伐採をする(権限を有する)者と造林をする(権限を有する)者が異なる場合は連名で提出します。

添付計画書

- ・「伐採計画書」は、伐採をする(権限を有する)者が提出します。
- ・「造林計画書」は、造林をする(権限を有する)者が提出します。

②状況報告書

- ・「伐採に係る状況報告書」は、伐採をする(権限を有する)者が提出します。
- ・「伐採後の造林に係る森林の状況報告書」は造林をする(権限を有する)者が提出します。

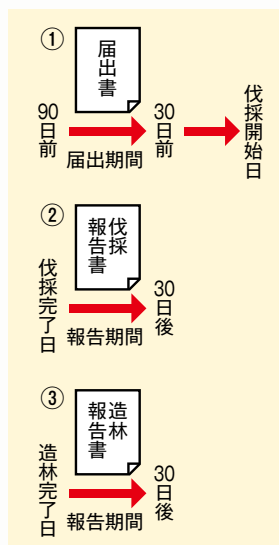
Q. いつ、どこへ提出するの？

- ①伐採及び伐採後の造林の届出：伐採を始める90日から30日前まで
- ②伐採に係る森林の状況報告：伐採を完了した日から30日以内
- ③伐採後の造林に係る森林の状況報告：造林を完了した日から30日以内

※対象森林の所在する市町村に提出します。

Q. 添付書類は？

伐採届には伐採箇所を示した位置図等の添付をお願いします。



伐採旗設置制度のお知らせ

皆伐(普通林は1ha以上)を行う場合は、伐採旗を設置してください。

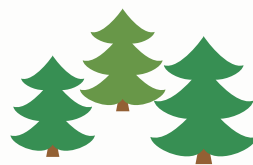
Q. 制度の目的は？

合法伐採を行う目印として伐採旗を設置し、合法伐採箇所の判別を容易にすることで、違法伐採の防止を図るとともに環境に配慮した伐採を進めます。

Q. 制度の概要は？

下記の伐採を行う現場に伐採者が伐採旗を設置します。

種類	普通林	保安林
旗の設置対象	1ha以上の皆伐	全ての皆伐
設置する旗	伐採届出旗	伐採許可旗
旗の交付者	市町村	県(農林事務所)
設置期間	伐採開始日～造林完了まで	伐採開始日～伐採終了まで



●詳しい内容を知りたい方は 林政課森林計画係 (TEL 058-272-8471)まで



ぎふ木遊館通信



＜来館者の日常につなげるプログラム ～ 絵本ひろば ～＞

ぎふ木遊館には、木の遊具やおもちゃ以外に、100冊以上の絵本を所蔵しています。森や木を題材にしたものはもちろん、親子のコミュニケーションにつながるもの、手遊びや創作につながるものなど、多種多様なものが揃っています。

毎月第2土曜日には、図書館での司書経験豊富なスタッフが木工室におススメ絵本や手作りポップをレイアウトし、『絵本ひろば』を開催しています。絵本を通して、身近な自然、季節の行事、暮らしの習慣を知ってもらい、日常の中でそれらに出会う楽しさや自分との関わりを伝えています。

3月の『絵本ひろば』では、かがく紙芝居『たんぼぼ』を紹介しました。冬越しのロゼット葉(地面に貼り付くように放射状に出る葉)の話をしたら、ある小学生の男の子は床に大の字に寝て、ロゼット葉の真似を体で表現してくれました。また、蝶々がテーマの絵本を読み、簡単な折り方でできる立体の蝶々の作り方を教えたところ、小さな子にも「できた!」を味わってもらうことができました。後日、家庭でも親子で折り紙を楽しみながら春の気候や生き物の話をしました、という来館者のお話も聞くことができました。

『木育』というと、森や木の話をしなないといけないんじゃないか、木に詳しくないといけないんじゃないか、という先入観がある方もいるかもしれませんが、そうとは限りません。参加者の共感を生む話題、テーマの新鮮さや時事性も大事です。相手のことをよく観察し、絵本・折り紙・手遊び等、自分の得意なことを活かしながら、森や木につながる様々な要素を細やかにつむいでいくことも大切です。

木育の発祥の地である北海道では「あれも木育 これも木育」ということばで様々な取組があります。ぎふ木遊館でも、スタッフの創意工夫でいろんなスタイルの木育を発信していきたいと思えます。



＜地域とのつながりをつくるプログラム ～ 竹灯籠づくり ～＞

3月下旬、山県市長滝で竹林整備と地域振興を目的に活動している「長竹会」のみなさんをお招きし、竹灯籠づくりのプログラムを開催しました。竹も身近な里山を構成する種の1つで、きちんと手入れをして有効活用していくことに興味をもってもらうためのプログラムです。

「竹は木かな?草かな?」そんな問いかけから始まり、好きな長さ・太さの竹を選び、模様の型紙も好きなものを選びます。型紙にそって電動ドリルで穴をあけていきます。型紙に縛られず、好きな模様にしたという子にも丁寧な指導で対応していただきました。電動ドリルを使うのが初めてという方がほとんどで、子どもも大人もよい経験になり、満足感と達成感を感じてもらえました。



長竹会は、竹林整備で出た竹を使って、毎年約 2,000 基の竹灯籠を山県市の甘南美寺境内に設置し、竹灯籠と山寺の幻想的な雰囲気を楽しむイベントを開催しています。このような地域の取組とのつながりをつくるプログラムを今後も企画していきたいと考えています。



やがてみんなの森になる

morinos

プログラム紹介！！

岐阜県立森林文化アカデミー内にある森林総合教育センター（愛称morinos）で実施しているプログラムについてご紹介します！

< [morinosプログラム] 星空ピアノ&ごろ寝 ～一夜限りの森の音楽会～ >

morinosでは、森に親しむ入口となる様々なプログラムを開催しています。これまで森との関わりがなかった方が森に興味を持つきっかけにしてもらえたら。そんな願いをもって森×スポーツ、森×裸足など、「森×○○」による森での新たな体験を提供しています。

今回ご紹介するのは、ピアニスト山口佳子さんを迎えての「森×音楽×星空」のプログラム「星空ピアノ&ごろ寝」です。

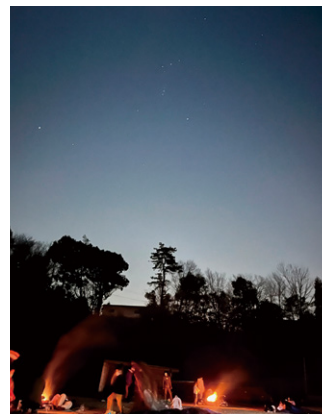
夜の森で横になって星空を眺めながら、ピアノ演奏を聴く。想像しただけでワクワクする「星空ピアノ&ごろ寝」。昨年度、コロナ禍でやむを得ず中止しており、今年度も一旦延期としましたが、2年越しにようやく開催することができました。応募人数が200名を超える中、抽選で当選した、39名の家族連れが一夜限りの森の音楽会を楽しみました。



【たき火を眺め演奏に聴き入る】



【星空の下の演奏】



【たき火と星空は相性抜群です】

自然の中での音楽会なので、ちょっとしたおしゃべりもゴロゴロ寝転がるのも眠っちゃうのも自由。

前半は子どもでも知っているとなりのトトロなどのアニメの主題歌やスタンダード曲が、後半は耳なじみのあるクラシック曲が演奏されました。

参加者の方からは「周りの目を気にせず親子の自然体な姿でいられてとても解放的」や「自然の中で、自由に音楽を楽しむイベントは他にない」、「子ども達もちゃんと音楽を楽しんでいる様子で、自然の力と音楽の力を感じた」などのうれしい感想をいただきました。

morinosでは、これからも新しい「森×○○」に挑戦していきます。



【星空、たき火、家族でゴロン】



【寒い中とてもステキな演奏でした】

こうした体験はmorinosのHPで開催をお知らせしています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。興味を持ってくださった方は、morinosのホームページ、動画YouTubeをご覧ください。

ホームページ <https://morinos.net>

開所時間 10:00~16:00

YouTube 検索「morinosチャンネル」

定休日 毎週火・水曜日



morinosHP



YouTube
「morinosチャンネル」



施設全景

施設概要

事業年度	令和2年度～令和3年度
事業主体	学校法人 真徳寺学園
構造 延床面積	鉄骨造 2階建 延床面積1,327.24㎡
施設用途	幼保連携型認定こども園
木材使用量 使用樹種	22.99㎡ ヒノキ、スギ
全体事業費	388,300千円
助成額	6,510千円(県:木の香る快適な公共施設等整備事業)
設計者	OKプランニング、(株)彩建築工房
施工業者	TSUCHIYA(株)
工期	令和2年10月5日～令和3年5月28日



本物の木の風合いが
目にも優しい保育室に
なっています。

子どもたちは、
木の香りに包まれながら、
落ち着いて絵本を読んだり
遊びを深めています。



施設の経緯

みつづかこども園は、昭和27年に大垣市内のお寺の境内に「まこと保育園」として設置されましたが、施設の老朽化に伴い令和3年5月に現在の場所に新築移転をしました。

床は桧、腰壁は杉の内装木質化に加えて、子どもたちが使用する机や椅子、ロッカー、靴箱、本棚も県産材を使用して、木の香る園舎となっています。



ここに注目!!

大ホールでは3～5歳児がボルダリングやサーキット遊びで身体を動かします。

小ホールでは0～2歳児が素足で木の床の感触を味わいながら遊んでいます。

利用者の様子

桧の床の上で、玩具を広げたり、座ったり、歩いたり、木のぬくもりを全身で受け取っています。

■問い合わせ先
学校法人真徳寺学園 みつづかこども園
TEL 0584-78-5400

樹木を見分ける

樹木を知るための一歩

岐阜県立森林文化アカデミー 准教授 ● 大洞 智宏

● 樹木の姿

一昔前までは、森づくり(造林)といえばスギ、ヒノキなどの針葉樹を植栽することが普通でした。しかし、森林への期待が多様化してきた現在、針広混交林や、天然力に依存した更新法に注目が寄せられています。しかし、これらの方法を実施するためには広葉樹の知識は欠かすことができません。なかでも、広葉樹の種類を見分ける能力は基本中の基本といえます。

● 葉の形

樹木の種類を見分けるには、いろいろなポイントがありますが、葉の形を手がかりにする方法が最も取り組みやすい方法です。葉の形を中心に記載してある図鑑も多く販売されており、森林文化アカデミーの実習もここから始まります。葉で見分けるポイントは、枝にどのようなパターンで葉がついているのか、葉が分裂しているかどうか、葉の縁のギザギザの有無、毛の生え方などいくつかあります。実際に樹木を見る際には、葉の特徴だけでなく花や実、冬芽、樹皮などの様々な部分を観察することで見分けが容易になる場合があります。

● 花や実の形

季節によって無い場合もあります。花や実の形は見分けの重要なポイントになります。写真2の植物は葉が分裂していませんが、羽のついた果実があることでカエデの仲間であることが分かります。

● 冬芽の形

落葉広葉樹は冬期に葉を落とすため、葉での見分けは困難になります。この時期にポイントになるのが冬芽です。冬芽は枝先などにある葉や花になる部分で芽鱗や未展開の葉に被われた部分です。あまり注意して見たことがないかもしれませんが、個性的で樹種を見分けることができます(写真3)。

● 樹皮

木が大きくて葉を近くで見ることができない場合や落葉期には、枝の張り方や樹皮の様子が種類を見分けるポイントになります。しかし、いつでも観察ができる反面その見た目は木の大きさや個体によって変わる場合があります。このため、樹皮を使って種類を見分けるには葉や花によって見分けるより経験が必要になります。例えば、写真4は、上下ともトチノキの樹皮ですが見た目が大きく異なっていて別の樹種のように思えます。

● 知る楽しみ

森づくりを行うためには樹木の見分けは必要不可欠な能力です。しかしそれだけでなく、樹木の種類が分かるようになれば、登山や森林での散策などで今まで気がつかなかったことを発見できたり、お気に入りの樹種を見つけたり、幸せな気分になったり、楽しみが倍増します。まずは、身近な樹木の葉や花がどんな形をしているのか改めて観察してみませんか。



写真1 いろいろな形の葉



写真2 チドリノキ葉・実



写真3 オニグルミ冬芽



写真4 トチノキ樹皮

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”



県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取組みを行っています。こうした取組みの内容について連載で紹介します。

清流の国ぎふ地域活動促進事業 ～住民主体の創意工夫を凝らした森づくり・川づくり～

平成24年度から令和3年度までの10年間で延べ450件の事業が実施されました。

令和4年度は、55の団体がそれぞれ特色ある事業を実施します。

団体名	事業名
ぎふし森守クラブ	ながら川ふれあいの森・森林整備活動事業
三輪の里山を守る会	恵みの森づくり推進事業
長良川自然学校	長良川 川の学校事業
e-plus 生涯学習研究所	ぎふの川を学ぶ ～SDGsの視点で学ぶ環境のつながり
竹林救援隊	竹林の間伐と放置竹林を無くすための啓発活動
三井山「ふれあいの森」を育てる会	「三井山ふれあいの森づくり」推進事業
飛騨五木	学びの森公園および市民公園の自然環境を活用した木育事業
という	「小川で遊ぼう！IN 山県」
笠松の自然と共生を考える会	笠松町における生物多様性保全事業
ぎなんプレーパークの会	身近で森を感じよう2022 ～プレーパークをとおして～
木の駅上石津実行委員会	森林資源の活用
木曾三川子ども狂言クラブ	木曾三川流域治水と生態系保全狂言プロジェクト
ぎふ地球環境塾	ぎふ地球環境塾
泉京・垂井	「水循環の里・垂井」モデル里山事業
ロブレスポーツジャパン	私たちがやるべき種まきプロジェクト
揖斐自然環境レンジャー	徳山ダム上流に実のなる木を植えよう大作戦
小津区自治会	小津地域を主体とした森づくり事業
大和神社の社を守る会	憩いの場としての鎮守の森づくり・地域の竹林づくり
「北方憩いの森」整備・活用実行委員会	「北方憩いの森」推進事業
いび森のようちえん こだぬき	子どもたちが遊び続ける森づくり
立木学園	木育推進事業
富岡ふれあいまちづくり委員会	トミブレ大岡山フィールド（大岡山整備事業）
関市広見交遊会	関広見ICふれあい遊歩道整備事業
自然、生活共生会	「森と海は一つ」新しい森づくり川づくり
エゴノキプロジェクト実行委員会	エゴノキプロジェクト
郡上漁業協同組合	第12回長良川源流の森育成事業
明宝ジビエ研究会	明宝の森とエコサイクル推進事業
大洞里山整備隊	整備後の森林空間活用事業
川合まちづくりの会	子どもたちに引き継ぐ川づくり推進事業
こどもの庭	森のようちえんにおける里山整備および環境教育事業

団体名	事業名
テクテククリン	テクテククリン&タガヤスケーププロジェクト
みのかもアルプホルンクラブ	アルプホルンを吹こう
木曾川左岸遊歩道友の会	木曾川左岸遊歩道等周辺整備事業
大森奥山湿地群を守る会	大森奥山湿地群の保全事業
半布里の郷	富加町の自然を守る里山整備活動
美濃白川どんぐり会	落葉樹林 植林・育成、河川環境保全事業
中山道新作狂言プロジェクト	中山道新作狂言による環境保全
小里川ダム里山教室	2022秋の小里川ダム湖周ウォーキング
付知町優良材生産研究会	未来を担う中学生への森林環境教育
いのちもり	子どもたちが元気に育つ森づくり事業
ひるかわ里山活性化委員会	里山活性化事業
加子母むらづくり協議会	学びの森 木の匠育成事業
奥矢作森林塾	峰地区における森づくりと担い手づくり活動
土岐川庄内川源流の森委員会	土岐川・庄内川源流地域の資源、恵みを発見生かす。下流域の学生、市民との交流と体験を通して森、川、里づくりの活動への提案と活動の担い手を生み出し地域を元気にする。
里山を守る会武並	里山・みんなの森づくり事業
中部大学環境保全教育研究センター	動植物レフュージアの利活用推進事業
中切区里山環境整備活動組織	中切区里山整備事業
森守クラブ合同会社まつぼっくり	里山資源を活用した里山づくり推進事業
二本木生産森林組合	飛騨高山「彦谷の里」里山活用と広葉樹林育成事業
ひだの未来の森づくりネットワーク	森林に関わる地域情報発信活動
高山南の森保全の会	高山南エリア里山林整備事業
飛騨高山わらべうたの会	森林環境教育推進事業
森の自然学校	清流の森づくり
山の自然文化研究センター	森と川の結のはたらき
ギフチョウの翔ぶ里山の自然を考える会	希少チョウ類の保全活動事業

●令和3年度実施事業



付知町優良材生産研究会
(未来を担う中学生への森林環境教育)



川合まちづくりの会
(子どもたちに引き継ぐ川づくり推進事業)





【写真1】
「山水國男さん(右から2人目)」
(岐阜県緑化功労者表彰式にて)

いくつになっても、 やっぱり「山」が好きなんや!!

山水 國男さん

「岐阜県緑化功労者」と「令和3年度緑化功労者(林野庁長官賞)」を受賞される!

不破郡垂井町大滝地区に山林を所有し、山づくりを始め、長年、地域や県の林業グループ活動にも精力的に取り組まれ、昨春秋に「岐阜県緑化功労者」、さらには、「令和3年度緑化功労者(公社) 国土緑化推進機構主催」で「林野庁長官賞」を受賞される、同地区在住の山水國男さんにお話を聴きました。

今回、栄えある賞を県だけでなく国からも受賞されますが感想を一言お願いします。

長いこと、山に関わってきたんやと、改めてこれまでのことを思い返しました。みなさんのお陰です、ありがとうございます。

山との関わりは、いつ頃からですか。

■中学に入った頃からかな。当時は、戦後間もなくの燃料革命前で、父親と一緒に持山のカナギを伐って、そこに造った炭窯の傍に建てた小屋に泊まり込んで、よう炭を焼いたよ。作業の間には、山茶を採って火であぶって一採みしてからヤカンで煮出して山吹色のお茶でひと息ついたもんですよ。また、春には小屋で山椒の新芽入りの味噌汁を、夏には自家製の茄子、秋にはマツタケやサンマなんかも焼いたりして、作業とともに山の暮らしを楽しんだんよ。今でもよう覚えとるよ。

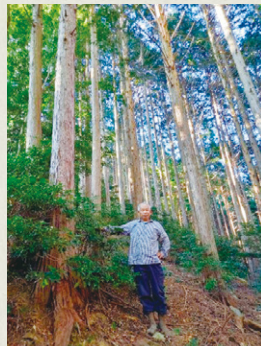
上りの方はどのようでしたか。

■伐ったカナギ山に、スギやヒノキを父親と一緒に植えたよ。なるだけ手をかけないで済むようにと、3年生の苗木を買って、畑で2年育成し大きくしてから山に2間ご

とに植えたんよ。お陰で、下刈りは大変だったけど、間伐は今まで一回もやらんと、植えた木は大事に育てとるよ。父親は早くに死んでしまったが、一緒に植えた木を良いものにしたくて、枝打ちを6mぐらいまで、ぶり縄で2回ほどやって、今では枝下に背丈ほどあるシキビがようけ生えとるよ。

（関ヶ原町）今須と緒で、この辺でも枝打ちばかり縄なんてすね。

■そうやな。枝打ちはぶり縄ばかりやったな。梯子は使ったことないな。今須の(山本)総助さんや(山本)信綱さんらとともに、あの頃は、林業グループ同士の交流も盛んで、枝打ちをようやとった。今では、そんなことする人もおらんようになってしまったけど。



【写真2】
父親と一緒に植え、
自ら育ててきたスギ・ヒノキ林
(下木はシキビ)

林業グループ活動にも色々熱心に取り組まれていますか。

■そうやな。年数を経て、色んな役もやらせてもらったね。お陰で、県内だけでなく、全国の林業地や林業関係者の方々と出会う機会に恵まれたね。あっちこっち本当に、よく行かせてもらったよ。

なぜ、そこまで熱心になれるのでしょうか。

■まあ、ずっと生まれ育ったこの地で関わってきた山と木が、それと山の恵みのキノコ

が大好きやっちゃうことかな。父親と自分が植えた木は、私ら人間の営みに関係なく、休みなく自然に即して育っていつとる。そこにうちらが、良い山になるように時々手を加えとるだけやね。また、同じ集落内に製材所があって「あれ挽いてくれ、これ挽いてくれ」と色々無理も聞いてもらえとる。すべてに愛着があるから、幾つになっても何をしても山は楽しいんよ。



【写真3】
山林内で原木キノコも栽培
(写真は「マイタケ」)

まだまだこれからも楽しみますね。

■そうやな。僕らは山や木の楽しみ方を小さい頃から学んできたけど、今の子は、そんな機会もなく、正直、ちよつとかわいそうやな。間伐体験なども大事やと思うけど、「①苗木を植えて、育てるといいう、一から山づくりに関わると、木とともに自分も同じように年齢を重ねられて、愛着が湧くんじゃあないかな。②そうしたら、もつと山に目が行くことになるんじゃあないかな。③そういう原体験・根っこになるようなことが人にとってはとつても大事になるんじゃあないかな。」そんなふうに思うよ。僕ら世代の厳しい子ども時代に比べれば、とても豊かな時代になったけど、そういうところも豊かになるといいなと、そう思うとるよ。

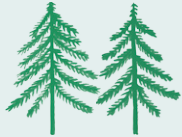
●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0584-731111 内線(395)

西濃農林事務所 林業課 林務係 まで



研修生の現場課題を解決に導く 新たな施業プランナー研修



■森林文化アカデミー
森林技術開発・支援センター 普及企画係

林業普及指導員 上村 康人

はじめに

岐阜県では、平成20年度から施業プランナーを「森林所有者に対し、間伐や路網整備等の収支を含めた施業提案を行い、森林経営計画を作成・実行監理ができる中核的な人材」と位置付け、林業事業者の施業プランナーを育成するための研修を企画・運営しており、令和3年度末までに187名が修了し、現場で活躍しています。

研修が始まって13年目になる令和3年度は、研修内容を刷新しました。施業プランナーを養成する「育成研修」は従来と同様である一方で、令和2年度まで実施していた、育成研修修了生の資質維持を図る「技術維持研修」を廃止し、新たに、施業プランナーの技術力の向上を図るための「実践力向上研修」を実施しました。

新たな研修の発想と手法

研修の実績に入る前に、新たな「実践力向上研修」実施方針について、触れたいと思います。

○研修目標の違い

技術維持研修

・現場で活躍する施業プランナーが、資質維持や時機に応じた知識を身に付けること。

実践力向上研修

・現場で活躍する施業プランナーが、自らの事業地における問題発見から課題

解決に取り組む過程を通じて、技術力の向上を図ること。

右に記載しましたように、大きな違いは「維持」と「向上」にあります。

○新たな研修の必要性

これまで、施業プランナーの皆さんには、概ね5年に1回、技術維持研修を受講していただいております。この研修へのご意見としては、長年、施業プランナーとして活躍されている方にとって、似通った受動的な内容である一方で、更なる技術の向上が望まれているといったご意見がありました。一方で、県としても、研修開始から一定期間経過しているため、改善すべきものは改善したいとして検討してまいりました。

○発想をどこに

施業プランナーが事業を実施する状況はそれぞれ違います。地形等の自然状況、流通等の経済や社会の状況、組織の状況、さらに森林所有者の方や地域の意向が挙げられます。

そのため、様々な現場の状況の違いに対応することが重要で、その違いへの対応力を高めることが技術力(実践力)の向上と言えます。

○課題解決型的手法

そこで、研修生が自身の現場で実際に直面する課題を題材にし、学術的な専門家や施業プランナーとして、また、林業経営を実践されている方々に講師として

集中的にアドバイスをいただきながら、いわゆるオーダーメイドで課題解決に向けて取り組む手法をとることとしました。

施業プランナー育成研修

○研修目標

①施業プランナーの役割や必要な基礎的知識を身に付けること。

②施業プランナーの主たる業務である施業提案書の作成及び、森林経営計画作成と実行監理の出来る人材の育成。

○令和3年度の研修開催状況

①修了人数…10名

②開催日数…14日

○研修内容の紹介

研修は5月から2月の間に実施しました。研修項目として、森林調査、森林所有者への施業提案、研修の集大成である実績発表等を行いました。



▲写真①森林調査についての座学

新型コロナの影響で、全14日のうち、初回と最終回を含む6日間は、オンライン実施とせざるを得ませんでした。森林調査や作業道図上計画といった実地での実施が不可欠なものは、集合して開催することができました。

📌 施業プランナー実践力向上研修

○研修の目標は前述のとおり

○令和3年度の研修開催状況

①修了人数…3名

②開催日数…5日

○研修内容の紹介

研修は10月から1月の間に実施しました。1日目に研修生から事業地と課題の説明があり、講師からの質疑を基に状況や問題点を整理しました。2日目から4日目は、実際に各研修生の現場へ行き、講師とともに検討しました。5日目は、各研修生による今回の研修を通じた課題解決案の発表がありました。

講師には、幅広い視点でご指導いただけるよう学術的専門家、林業経営者、森林組合参事及び参事経験者、路盤等土質の専門家をお招きしました。

研修生の課題は、「作業道におけるぬかみ対策」「作業道の延長により利用間伐エリアを増やせるか」「択伐林施業地における森林経営・施業の方向性」でした。

「作業道におけるぬかみ対策」については、講師から「路盤材が不良であるため、改善するためには、物理学的な指標を確認し、滑りにくい材質の路盤材をしっかり確かめた上で使用する必要がある」といったアドバイスがあったほか、「地質、地形の特徴からみた湧水対策のポイント」「施業地全体の資源量や路網の状況からみた収支を想定した作業システムや施業計画」についてアドバイスをいただき、研修生は複数の対策を検討し、今後の方針を見定めることができました。

「作業道の延長により利用間伐エリアを増やせるか」については、講師から地形、地質、林分の状況を考慮した複数の路線案が示されました。この路線案から、作業道開設の可否を検討しました。具体的には、「三角末端面等の、崩壊しやすい箇所や過去に崩壊した箇所を現地で確認」し、また、「目標とする収穫箇所に向けた線形案と、それに必要な構造」を議論しました。これにより、研修生は、作業道設計のための様々な視点を学び、事業地における設計方針を見定めることができました。

「択伐林施業地における森林経営・施業の方向性」については、講師から、「地域内の個々の林分状況からみた実施可能な施業方法」、「歴史的価値としての他分野と

連携」などについてアドバイスがありました。研修生は、地域内で異なる状況の林分に応じた施業提案をしていく方針を見決めました。また、歴史的価値を活かした取組みのためには行政や地域との連携の必要性を認識しました。

○研修生の声

今回、受講された研修生の方々からは、「自分の課題解決の方向性が見えるようになった」「様々な意見を聞くことで、思い浮かばなかった考えができるようになった」「他の研修生の現場を見ることで、普段とは違う面を学ぶことができた」といった感想をいただきました。

○研修に対する評価

研修の最後には、意見交換を行いました。講師の皆様からは、開催時期が遅い、受講者数が少ないなどのご指摘があった一方で、学術面だけでなく、経営面の講師がおり、時間をかけて、現場の課題に取り組んだことは良かった、研修生が望む内容であり、林業界のレベルアップにつながると思うといった評価をいただきました。

📌 最後に

今年度、初めて実施しました「実践力向上研修」の外部講師として指導いただいた皆様には、オーダーメイドの研修内容に対して、多くの経験に基づく知見と見識により、臨機応変かつ濃密にご指導いただき、心より感謝いたします。

令和4年度も引き続き「育成研修」と「実践力向上研修」を実施する予定です。大きな刷新のみならず、ニーズや社会情勢に応じて、林業界の皆さまのご協力を得ながら、更なる改善にも努めてまいります。と思っています。



▲写真②研修生と講師による作業道検討

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-33-2000

森林文化アカデミー

森林技術開発支援センター

普及企画係まで

造林・育林作業の機械化シンポジウム



造林・育林作業の多くは人力で行われており、労働強度の軽減や労働災害の発生防止、作業の効率化を図るためには、機械化を進める必要があります。

その点で岐阜県は令和2年度に林業用無人化技術の開発（造林・育林作業の機械化・無人化）を行った経緯があり、岐阜県は先進県として、全国で初めて造林・育林作業の機械化に特化したシンポジウムを12月7日に森林文化アカデミーで開催しました。

内容は国及び先進県による取組事例の紹介と意見交換会で、林野庁、山梨県、長野県、大分県、キャニオン（福岡県の機械開発メーカー）、岐阜県が発表を行いました。いずれも森林文化アカデミーが林業用無人化技術開発を行う上で情報提供などを依頼していた機関で、愛知県や三重県、遠くは山口県からもご参加いただき、活発な意見交換が行われました。

参加者の意見は「造林・育林作業の機械化に特化したシンポジウムは初めてであり、とても刺激を受けた」、「全国の事例を聞くことができて

勉強になった」、「遠くから参加した甲斐があった」など好評価でした。

シンポジウムの内容は他県からもネットでの公開を望む声が多く、発表動画のみになりますが、森林文化アカデミーのユーチューブチャンネルに掲載しました。

合計すると約2時間の動画ですが、聞きたい発表に飛べるように目次リンクも貼り付けてありますので、お時間のあるときにご覧ください。造林・育林作業の機械化は全国で取組が始まっています。

◆動画のアドレス
<https://youtube.be/a9CCoP0mJ-M>

造林・育林作業の機械化シンポジウムの動画はこちらからご覧いただけます。



●詳しい内容を知りたい方は
 TEL 0575-1350-2535

森林文化アカデミー
 スマート林業推進係まで



読者の方からの質問に答えます

山林協会通信③

森林のたよりの読者の方から次のような質問がありました

【質問】

若い頃から、「つぎ木」、「さし木」を趣味としており、木曾五木の「さわら」、「ねずこ」、「あすなろ」などは良くできますが「こうやまき」はどうしてもうまくできません。教えてください。

県立森林文化アカデミーの川尻秀樹さんに聞いたところ下記のような回答がありました。

【回答】

コウヤマキはアカマツなどと同様に、挿し木の発根率が非常に困難な樹種で、発根率が3%とか数パーセントであるのが一般的です。

コウヤマキの挿し木は、①発根促進剤を使うこと、②挿し穂を赤挿とする、③3月か梅雨時に挿し穂を採ること、④寒冷紗で遮光するのが基本です。

発根促進剤はホームセンターで、商品名オキシペロンとカルチエースを購入して下さい。これはほとんどの植物に利用できます。

また赤挿しとは、緑枝挿しに対する表現で、当年生の青々した部分ではなく、2年生の樹皮が少し茶褐色になった部分から発根させるものです。

3月なら赤挿し部分を採取すればいいですが、新芽が伸長し始める4月～6月はせず、梅雨時に赤挿し部分の挿し穂を採ります。

なお挿し床は鹿沼土など、栄養分のない無菌化されたものを利用し、遮光率50%程度の寒冷紗で日覆して下さい。

コウヤマキは環境が良ければ発根することなく、10か月ほど青々としていることも多いので、むやみに挿し穂を触らないようにし、適正な灌水を心掛けてください。

今後も、読者の方から質問があれば、できるだけ対応したいと考えています。

ご質問のある方は、下記までご連絡ください。なお、勝手なお願いですが、質問内容が把握できるように、メール、FAX、葉書、手紙でお問い合わせくださるようお願いいたします。

問合せ先：（公社）岐阜県山林協会

〒500-8356 岐阜市六条江東2丁目5番6号
 TEL 058-273-7666 FAX 058-273-3933
 E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

【山林協会 瀬上】





図-1 プナシメジの施設栽培状況

キノコの栽培工程で発生する酢酸が

菌糸伸長に及ぼす影響

岐阜県森林研究所 ● 水谷 和人

背景と目的

キノコの施設栽培は、オガ屑にフスマやヌカ類、水等を混合して容器に詰め、高圧滅菌した後に種菌を植えて行います(図1)。現在、施設栽培が行われているキノコは数十種程度ですが、これは数あるキノコのうちのごく一部です。

シイタケでは、オガ屑の高圧殺菌で発生する酢酸が菌糸伸長を阻害することが報告されていますが、シイ

タケ以外のキノコについてはよくわかっていません。今後、新たなキノコの施設栽培化を検討するために、キノコの菌糸伸長に対する酢酸の影響について調査を行いました。

調査の方法

酢酸の影響は酢酸を加えた寒天培地上での菌糸伸長速度で評価しました。対照地は改変 Malt extract 培地とし、酢酸の影響は対照培地に酢酸を 0.2 ml/L 添加することで比較しました。供試菌は主に岐阜県森林研究所で保存しているもので、5 mm 径のコルクボーラーで打ち抜いたものを接種片としました。培養温度は 21℃ で菌糸伸長速度を測定し、各条件 5 枚のシャーレの平均値を測定値としました。

酢酸添加の影響

キノコは生活タイプによって、木材や落葉を分解して栄養源とする腐

生菌(木材腐朽菌や落葉分解菌)、樹木から栄養をもらって共生する菌根菌、生きた植物や動物などから一方的に養分を吸収する寄生菌に分けられます。試験に供したキノコ 20 属 32 種のうち腐生菌は 14 種、菌根菌は 15 種、寄生菌は 3 種です(図2)。

腐生菌のうち木材腐朽菌は、酢酸を添加することにより、菌糸伸長が促進されるものと弱く阻害されるものが見られました。

促進効果が高かったものはブクリヨウ、マイタケ、ヤマブシタケ、チヨレイマイタケでした。ブクリヨウは酢酸添加で対照培地の 188% の菌糸伸長を示しました。一方、腐生菌の落葉分解菌のハタケシメジ、キヌガサタケの菌糸伸長は強く阻害されました。

菌根菌は酢酸添加により、菌糸伸長が著しく阻害され、多くが全く伸長しませんでした。例外的にホンシメジおよびシヤカシメジは酢酸添加でも対照培地の 95% の伸長を示しました。

寄生菌は酢酸添加により菌糸伸長が阻害される傾向にありました。キノコの種類によって酢酸に対する菌糸伸長に違いが認められるため、キノコの種類によっては、オガ屑以外の栽培資材を検討する必要があると考えられました。

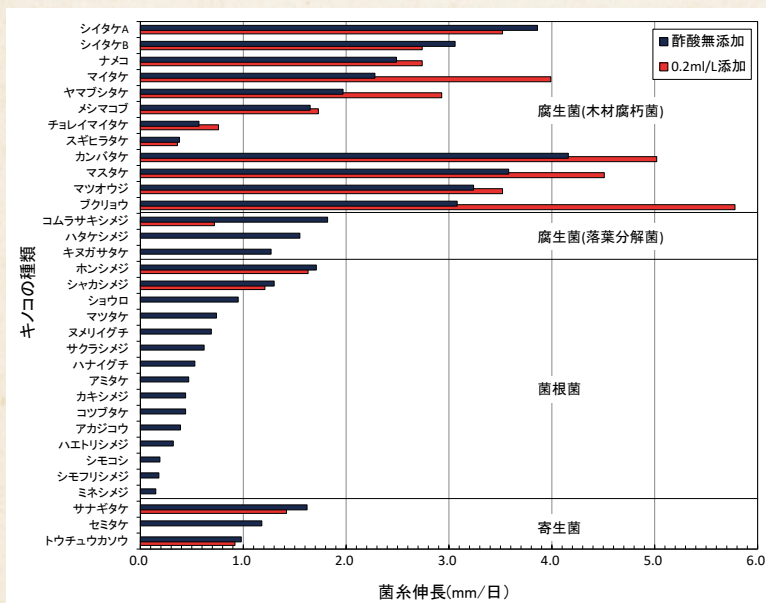


図-2 酢酸が菌糸伸長に及ぼす影響

● 詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-331-2585

森林研究所まで

滝波谷における治山事業の取組

令和4年1月26・27日に中部森林管理局主催の「令和三年度中部森林技術交流発表会」がWEBで開催されました。

岐阜森林管理署からは、板取川治山事業所がコンサルタント会社と共同で発表しました。今回はその発表概要を掲載します。

① 背景

平成30年の7月豪雨により、板取川上流域の滝波谷では大規模崩壊地が発生し崩壊土砂が土石流となり、下流域の観光業や漁業に大きな被害を及ぼしました。

滝波谷は、平成16年度より着手している「板取川地区国有林直轄治山事業」に隣接する流域であることから、令和元年度に区域拡大されました。



▲滝波山の大規模崩壊地

令和2年度に崩壊地の地質調査を行い、崩壊地のデータも解明してきたことから、今後の復旧計画に活用して行きたいと思っています。



▲崩壊地の源頭部

② 取組の経過

滝波谷の荒廃の大きな特徴としては、上流域では崩壊地から生産された土砂が土石流となって本流を流れ下り、また、中流域では溪床部にあった土砂が起源となって土石流が発生していることが、現地調査による地形確認や石礫の分布状況から分かりました。

また、平成25年と平成30年の航空レーザ測量による差分解析図により流域内

の土砂の堆積や崩壊地の侵食状況について把握することができました。

治山事業においては、限られた工期と予算の中で最大限の効果が期待される治山事業を確実に実施する必要があるため、そのためには崩壊地の現状を知り、今後の荒廃の推移を把握することが重要です。令和2年度において次の調査解析を実施しました。

- ・レーザ測量による差分解析
- ・崩壊地の地質構造把握のためのボーリング調査
- ・弾性波探査による地下の速度構造解析



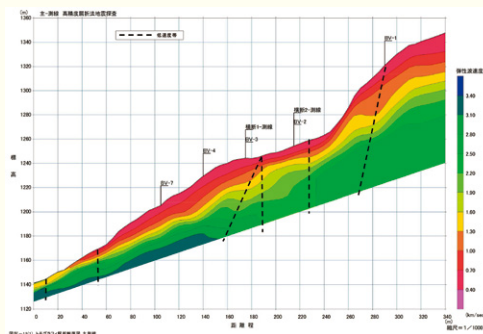
▲滝波谷の被害状況

③ 実行結果

地質構造を把握するために7箇所でボーリング及び標準貫入試験を行いました。この付近の基盤岩は中生代の溶結凝灰岩で、上部には崩壊した土石が10m前後の厚さで堆積しています。

弾性波探査では、4層構造で下へ行くほど固い岩盤であることが分かり、3地点では脆弱な地層も確認されました。

また、トモグラフィ法による解析では、6地点で低速度帯が認められ、固い岩盤の下に隠れている脆い層を見分けることができました。



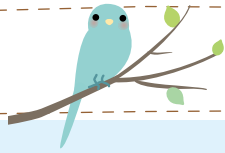
▲トモグラフィ法による解析

④ 考察

滝波谷の全体計画を策定する上で第一に下流域の保全を考え、流域からの土砂流出を抑制するために、溪流部分に溪間工を配置します。コスト縮減・工期短縮・発生土砂抑制に有効な工法であるインセムダムを採用し、その下流に流域からの流木の流下を防ぐスリットダムを配置します。

崩壊地については、未だに活発な土砂生産活動が認められることからモニタリング調査を続け、今回のデータを活用しながら復旧方針の策定を図りたいと思います。

(岐阜森林管理署)



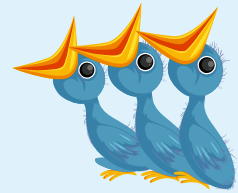
野鳥のヒナを拾わないで！

春から初夏にかけては野鳥の子育てシーズンです。野鳥のヒナの多くは、羽が生えそろうとすぐに巣立ちの練習を始めます。ヒナは、うまく飛ぶことができるようになるまでは地面にいて、エサを取りに行った親を待ったり、羽ばたきの練習をしたりしながら、自然の中で生きていくための様々なことを学びます。親鳥は、姿が見当たらなくても、近くにいてヒナを見守っています。この時期のヒナを保護することは、親鳥にとっては「誘拐」になってしまいます。羽が生えそろうているヒナを見つけたときは、子育てを邪魔しないように静かにその場を立ち去りましょう。

また、自然に生きる野生鳥獣を勝手に飼うことは法律で禁止されています。

羽が生えそっていないヒナを見つけたら？

近くに巣がある場合は、使い捨て手袋を使うか、ハンカチやティッシュペーパーなどでそっと包み、巣に戻してあげてください。発見場所が歩道の真ん中などヒナにとって危険な場所の場合は、近くの木の枝の上にのせる、草むらの中に置くなどして移動させてください。鳥をさわった後は、石鹸を使って手洗いをしてください。



●詳しい内容を知りたい方は **TEL 058-272-1111(代)** 環境生活政策課 生物多様性係まで

森林・林業関係イベントカレンダー(5月)

林業者向け

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込(問合せ)先/TEL
5月11日(水)	チェーンソーを用いて行う伐木等の業務従事者安全衛生教育(3~5年従事者再教育)	<ul style="list-style-type: none"> ●講習時間: 学科・実技 8:50~16:50 ●申 込: 開催日の10日前まで ●受講料: 12,430円(本代含む)(振込み) ●定 員: 30名(定員になり次第締め切ります。) 	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
5月17日(火)	刈払機取扱作業安全衛生教育	<ul style="list-style-type: none"> ●講習時間: 学科 8:55~15:20 実技 15:30~16:30 ●申 込: 開催日の10日前まで ●受講料: 11,550円(本代含む)(振込み) ●定 員: 40名(定員になり次第締め切ります。) 	JAひだ吉城営農センター(飛騨市古川町上野 571-1) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
5月18日(水)~ 5月20日(金)	伐木等の業務(チェーンソー)に係る特別教育	<ul style="list-style-type: none"> ●講習時間: 18日 学科 8:50~17:10 19日 学・実 8:50~12:00 20日 実技 8:30~17:40 ●申 込: 開催日の10日前まで ●受講料: 23,870円(本代含む)(振込み) ●定 員: 40名(定員になり次第締め切ります。) 	18日(学科) 19日(学・実) JAひだ吉城営農センター(飛騨市古川町上野 571-1) 20日(実技) 県森連飛騨林産物共販所(高山市新宮町 112-7) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



3月の日曜日午後、関市と各務原市にまたがる「ふどうの森」に行ってきました。昭和50年代に岐阜県生活環境保全林として整備されたふどうの森は、126haの林内に花木が植栽され、探索路や休憩所が設置されており自然探究や健脚の場として利用されています。また、ふどうの森には美濃三不動の1つ迫間不動尊があり、平安時代から信仰の場であったといわれ、老若男女を問わず迫間不動明王から迫間不動尊への石段を登り参拝しています。

今回は、駐車場から迫間不動明王を経て、迫間山に登り八方不動尊を参拝しました。その頂上からの眺めは、北は関市から美濃・飛騨の山並み、南は各務原市から名古屋方面を眺望することができ、心が洗われる景色が広がっています。

家族連れなどたくさんの方が登っており、石段でない歩道を登っていると若い人に追い抜かれ、平地では地面で出ている木の根に足を取られながら、一人になるとマスクを外して自然を満喫しました。

新型コロナウイルス感染症の感染対策をしながら、少しずつ元の生活に戻ることを願って日々過ごしています。

「森林のたより」編集委員 山下 篤志

イベント情報

6月1日発行

連載

- 山の歳時記(202)
- 山のおじゃまむし(371)

地域の人

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵(113)

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築(111)

清流の国ぎふ森林・環境税

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報

その他

6月号
予定

木材市場

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所 単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考
第1789回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	17,000	—	単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格
		4 m	16~18cm	16,000	—	
			20~22cm	17,800	—	
			24~28cm	17,500	—	
			30cm以上	15,800	33,000	
	4月5日	3 m	16~18cm	30,500	—	
			20cm以上	26,000	—	
		4 m	16~22cm	29,500	—	
			24~28cm	23,400	—	
			30cm以上	23,000	—	
6 m	16~18cm	—	—			
第1371回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~22cm	17,000	—	
		4 m	24~28cm	17,000	—	
			30cm以上	16,000	19,300	
	4月6日	ひのき	3 m	16~18cm	30,700	—
			4 m	16~22cm	29,000	—
				24~28cm	23,500	—
				30cm以上	23,200	36,600
		6 m	16~20cm	36,000	—	
	ひめこ	4 m	24~28cm	13,000	—	
			30cm以上	14,000	21,000	
5 m		30cm以上	18,000	—		
くり	4 m	24cm以上	15,000	47,200		
第1703回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~22cm	17,000	—	
		4 m	24~28cm	17,000	18,000	
			30cm以上元	14,500	18,000	
	4月7日	ひのき	3 m	16~22cm	30,500	42,000
				24~28cm	23,000	37,000
				30cm以上元	27,000	36,000
			4 m	13cm以下	10,000	—
				24~28cm	23,500	—
		6 m	18~22cm	36,000	—	
		まつ	4 m	22~28cm梁	8,000	—
30cm以上元	10,000			—		

【商況】

各需要先の素材入手難を見越し、前回同様活発な入札となった。スギ4m元木中目、尺上良材は応札多数で強気、40cm上についても強含み。スギ並材3m・4mとも需要高、価格は強保合。3m(16~22cm)直造材が有利。スギ ラミナ向け3m・4m材は需要高。4m材は素材不足から強保合。ヒノキ柱材、土台向け継続して弱保合。直造材が有利。4m中目(24~28cm)についても弱保合。ヒノキ2.2m元木(26cm上)、直小曲、需要あり。合板向けはスギ、ヒノキ継続して需要高。製紙向けパルプ材、発電向け未利用材ともに原木不足感が強く需要高。(岐阜)

合板向けが依然として強含み。スギ製材向け柱取り、中目材も高止まりしている。ヒノキは保合、良材については応札旺盛。カラマツ・マツ引き合いが強い。ヒメコ・マツは伐採シーズンが終わり出材減少。広葉樹は出材量も多く並材良材ともに応札旺盛。特にクリ、ナラ2m・4m(30cm上) 応札旺盛。(飛騨)

全般的に、ヒノキ・スギ、並材は、応札旺盛にて保合。ヒノキ高齢材及び枝打材などには上向き気配にて強気。ヒノキ柱・土台の構造材については弱含みだが今後の動向に留意。ヒノキ3m・4mの30cm上は、需要があり価格は強含保合。ヒノキ2m(30cm上)は、良材は引合いがあり強含み。スギ材は売りやすく大径材は売れ行き堅調も単価は保合。合板向けはヒノキ・スギ継続して需要高。(東濃)

製品卸売標準価格 (3月期)

(単位:円)

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本枚)単価	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	100,000	(3,308)	→
	間柱	3000	105	30	1等	100,000	(945)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	上1等	130,000	(5,733)	↘
	柱	3000	120	120	特等	120,000	(5,184)	→
		3000	120	120	(東濃松)特等			
W 集 成 材	柱	6000	120	120	上1等	180,000	(15,552)	→
		3000	105	105	国産5層	167,000	(5,500)	→
		3000	120	120	国産5層	163,000	(7,000)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (3月期)

1㎡当り(価格単価:100円)

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	SSタイプ	450	米榎	へム(アラスカ産)	396
	コスト(目荒)	432弱	米ひば	ポール	378

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コストのみ大阪相場)

熱利用

木材用語一〇〇×

木質バイオマスのエネルギー利用効率率は発電で40%程度まで、熱は90%以上と高率になる。熱需要は一般家庭や店舗、病院等では暖房、給湯等がある。産業用は重油や石油等の代替燃料として熱需要があり、木材・建材業界では木材乾燥用の蒸気として製造副産物(製材端材等)が利用されている。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建材用語辞典